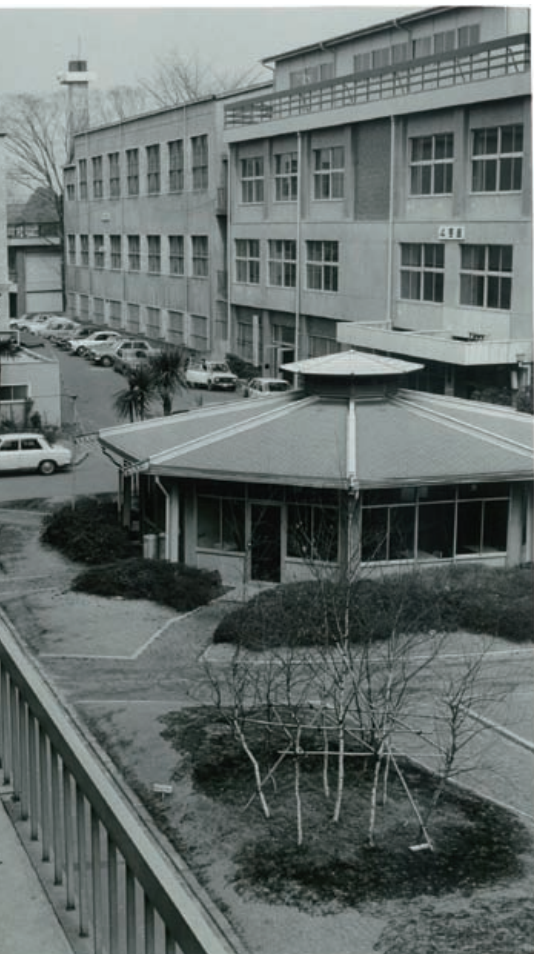


特集 **開校記念日によせて**



未来に繋がる
自分へ繋げる



● 開校記念日によせて	2
● 名誉教授のプロフィール	3
● KOMAZAWA NEWS	9
● 第8回学長学業奨励賞受賞者発表	12
● ボクシング部林田翔太選手 アジア大会で銅メダル	15
● 活躍する卒業生 Jリーグ V・ファーレン長崎 代表取締役専務 岩本文昭さん	16

開校記念日によせて

さらに学び さらに励もう

総長 池田 魯參



本学の歴史は淵源をたどると、曹洞宗の学林として発足した、422年前まで遡ることになります。そこから290年余の歴史を経て、明治15（1882）年10月15日に、麻布北日ヶ窪（現在六本木ヒルズ辺）の地に、駒込吉祥寺にあった「旃檀林」の学舎を移転し、「曹洞宗大学林専門学本校」として開学しました。この日を開校記念日と定め、本校は本年132年目を迎えることとなります。また、現在の駒沢の地に移転した、大正2（1913）年からは101年目となります。

周知の通り、開校当時の日本は、大政奉還・廃藩置県を始めとする大変革の時代でした。殊に新政府が打ち出した神仏分離令・廃仏毀釈外の宗教政策は、仏教諸宗に大きな衝撃を与えました。

曹洞宗も例外ではなく、新しい時代にふさわしい教団のあり方や、教団の方向を見直さなければならなくなったのです。世俗から超然とした伝統的な仏道修行の方法はそれとして大事なものはいうまでもありませんが、時代や社会の激しい変動に真正面から向き合い、広く深く高い学問の裏付けに基づいて発言し行動する新たな仏教者像が要請されたのです。専門の学問研究を行う大学教育の意義が改めて問われることになりました。

本学も現在では、仏教、文、経済、法、経営、医療健康科、グローバル・メディア・スタディーズの7学部、総合教育研究部、法科大学院を合わせ、7研究科からなる大学院を擁する総合大学へと発展しました。開校記念日にあたり改めて、本学の教育研究の充実を目指して叡智を傾け一筋に尽力された多くの先人たちの御労苦に想いをいたし、学生諸君、教員職員の諸兄姉とさらに学びさらに励みたくものと願います。

駒澤大学の 伝統と文化

学長 廣瀬 良弘



東京が2020年に再度のオリンピック誘致に成功したこともあり、「おもてなし」「和の食」などが話題となり、日本文化は「クールジャパン」とも表現され、世界から注目を集めています。この、日本文化の底流には、鎌倉・室町時代以降に育まれてきた禅の精神のうねりがあり、駒澤大学の伝統・文化もこの禅の精神の広がりの中にあります。

道元禅師はおよそ800年前に中国に渡り禅を伝え、山深い越前国（福井県）の大自然の中に永平寺を構えて、「只管打坐」（ひたすら打ち坐る）、「修証一等」（坐禅と悟りは一体）の禅を唱え、4代目の瑩山禅師は能登国（石川県）に總持寺を構え、「平常心是道」（いつも平常心で）「茶に逢うては茶を喫し、飯に逢うては飯を喫す」（喫茶の時には喫茶に徹し、食事のときには食事を）という日常茶飯の禅を唱え、その門弟達は全国展開を遂げました。在地の武士や有力農民などに受容され、乱世の中で展開し、関東甲信越地方でも長尾（後の上杉）・武田・三田・小山田・太田氏などに受容されていきました。

この流れの中で太田道灌は江戸城を築き、吉祥寺を建て（550年前）、徳川家康が江戸城に入って3年目に堀の外に出た吉祥寺の中に学寮（のちの旃檀林）ができました（420年前）。江戸時代前半のころの振袖火事で駒込に移り、明治15年に麻布（今の六本木ヒルズのあたり）に近代的な大学が開校されました。132年前のことです。そして、駒沢の地に移転して、101年が経過しました。禅宗の全国展開と全国に21万人の同窓生が存在し、本学に16,000人の学生が在学することとは無縁ではないのです。本学はその禅の伝統・文化を大切に、禅研究教育の拠点大学として、世界に発信して行かなければなりません。

一松語

『方丈記』の冒頭をも思わせる「同じ川に二度足を踏み入れることはできない」という一節は、古代の哲学者ヘラクレイトスの言葉であり、彼はまた「私は自分自身を探究した」と語ったことでも知られている。この世界を川の流れたとえることは洋の東西を問わず普遍的なひとつの見方だと言えようが、ここで問いたくなるのは、何が流れるのかであり、また、流れているにもかかわらずなぜ「同じ川」だと言える

のかである。◆「時の流れ」という表現があるように時間を一種の「流れ」として語ることもよくあることだが、アリストテレスは『自然学』の時間論において、運動は時間によって計測されるものであり、仮に時間それ自体が運動だとすればそれを計測する別の時間があることになってしまうとの理由により、時間を運動とみなす立場を批判している。◆たとえ時が流れ、花が色あせ葉が色づき、人の心は移ろうとしても、だからこそ、自分自身の側には確固たる「自己」を想定したくも

なるが、18世紀の哲学者ヒュームは「自己」を絶え間ない流れのうちにある「知覚の束」だとみなし、デカルト流の実体としての「我」に懐疑の矛先を向ける。ここにも東洋思想との共鳴音を聴きたくなる。◆今月15日は開校記念日である。たとえ時が流れ、私たち自身もまた流れのうちにあるのだとしても、自分を取り巻く環境や自分自身について、何が流れ変化し、何が流れず変化しないのかを立ち止まって考えてみることは私たちにも許されていよう。

名誉教授のプロフィール

名誉教授の称号は、学校教育法第106条、駒澤大学学則第51条及び駒澤大学法科大学院学則第14条第4項に基づき、教育または学術上、特に功勞のあった先生に授与されます。

各学部の教授会の推薦により名誉教授審議委員会にて審議され、今年度は、7月10日(木)に授与式が行われました。



仏教学部
石井 修道先生

石井修道先生は、駒澤大学大学院満期退学の後、1975年に仏教学部の助手となられた。ご専門は、中国宋代の禅思想研究だが、『宋代禅宗史の研究－中国曹洞禅と道元禅』(大東出版社、1987年)によって学位を取得された後は、それを基盤に道元禅師の思想的研究にも着手され、多くの斬新な成果を発表された。現在も松ヶ岡文庫(鎌倉東慶寺内)の文庫長として、宗派の枠組みを超えた活動を続けられている。

(仏教学部教授 石井 清純)



総合教育研究部
久保 陽一先生

久保先生が初めて駒澤大学で教鞭を執ったのは、昭和49年、非常勤講師としてであった。その後、昭和53年に専任講師として、駒澤大学の正式の教員となられた。以来、この3月までの36年間駒澤で哲学を講じてこられた。この間、学問に大いに努められ、ヘーゲル研究では日本を代表する学者の一人となられた。その学問は、ヘーゲルの国ドイツでも高く評価され、かの地でも教鞭をとることがあった。

(総合教育研究部教授 末木 恭彦)



総合教育研究部
石原 孝哉先生

石原先生は北海道時代から駒澤大学に勤務され、本校に移られて長年英語を教えられた。また、国際センター所長、学生部長、外国語部長も二期務められた。シェイクスピア研究に力を注がれ、イギリスのシェイクスピア・インスティテュートの学会で発表もなされた。研究書二冊著書もあまたおありである。借籍におつきゆえか、常時おだやかに仕事をなさっておられた。

(総合教育研究部教授 矢島 直子)



文学部
佐藤 千春先生

佐藤先生は、学習院大学大学院博士課程を修了後、専任講師として本学に赴任されて以来、41年にわたって教育・研究に尽力されてきました。ご専門は19世紀アメリカ文学で、特に、エマソン等の文学研究に精を出され、独自の見解を展開されてきました。先生と一緒に酒を酌み交わしながら、渋谷の居酒屋でT. S.エリオットの「荒地」を精読した頃のことを、今でも忘れられません。先生の「言葉」に対する愛情が、今、鮮やかに蘇ってくるようです。(文学部教授 河崎 征俊)



総合教育研究部
梅原 敏弘先生

梅原先生はご専門が英語学、駒澤大学には1978年に就任され、短期大学英文科に28年間奉職され、その後、大学内の改組・再編に伴い、総合教育研究部外国語第一部門に移籍されました。短期大学では主任を二期務められるなど、英文科の学生の指導、カリキュラム改革、学科の運営に尽力されました。また、オーストラリア・クィーンズランド大学との単位認定協定、学生交換協定の締結に先駆的な仕事をされました。

(総合教育研究部教授 大庭 直樹)



文学部
飯島 武次先生

飯島先生は1980年に奉職され34年間の教員生活を終えられたが、その間学部主任、人文科学第二研究科委員長などを歴任された。また、考古学専攻について発掘実習を基礎とした実験実習の教科として位置づけ、2001年からは中国で発掘実習を実施されたが、これは外国で行う正規の発掘実習として日本唯一である。ご専門は中国夏王朝から西周王朝時代の研究で、多くのご著書があり中国考古学を牽引されてこられた。

(文学部教授 酒井 清治)



総合教育研究部
高野 秀夫先生

高野秀夫先生は、本学の大学院出身で、「日本ジョージ・エリオット協会」等に所属し、イギリスのレスター大学、ウォリック大学等で、ジョージ・エリオットを研究してこられました。また、学内の、様々な委員会にも、積極的に参加してくださいました。先生が委員の依頼を断るのを見たことがありませんでした。退職後も、愛しているジョージ・エリオットの研究を続けることと思います。

(総合教育研究部教授 落合 和昭)



経済学部
徳永 俊明先生

徳永俊明先生は、1979年4月に本学経済学部に「国際経済論」担当の専任講師として就任されました。以来大学院の講義を含めて研究・教育に努力されました。学部の演習では、アジアの発展途上国に学生を引率し、貧困と格差の現実を直視することを教え、また学生を自立した市民として人間形成に導くために努められました。徳永先生の今後の益々のご活躍に期待いたします。

(経済学部教授 光岡 博美)



総合教育研究部
杉山 秀子先生

杉山秀子先生はロシア・ソビエトの文学、思想、日露比較文化を研究の柱とし、ゴロッキー、のちコロンタイの研究で大きな足跡を残した。その成果には『コロンタイと日本』等の著書で触れることができる。

同僚としての杉山先生は、権威や秩序を気にかけてぬ豪放なお人柄で、向かうところ敵なしであった。多様な個性が補完しあい全体として光彩を放つべき「大学」ならではの存在だったと思う。

(総合教育研究部教授 塩旗 伸一郎)



法学部
松村 格先生

松村先生は1974年に本学法学部に奉職され、以来40年間、法学部長、図書館長など要職を歴任され、本学の教育・研究、発展に貢献されました。ご専門の刑法学では刑法解釈学の方法論に関心を寄せられ、システム論を基礎に刑法解釈論を展開され、たとえば、犯罪システムの制御・支配的役割からの共謀共同正犯の説明など、注目すべき業績を多く残されました。先生のお人柄を慕うゼミ生も多かったと聞いています。

(法学部教授 原口 伸夫)



総合教育研究部
光永 吉輝先生

光永先生は、1971年に体育研究室助手として赴任され、1987年に保健体育部教授、その後、総合教育研究部スポーツ・健康科学部門教授と42年の永きに渡り保健体育教育を担ってこられました。2006年「せたがやeカレッジ」公開講座で、全国の子供たちに多発している「せぼねの異常」脊柱側弯症の早期発見法と改善のためのストレッチを具体的に映像で紹介し、大きな反響を呼びました。光永先生、益々のご活躍を期待いたします。

(総合教育研究部教授 竹田 幸夫)



グローバル・メディア・スタディーズ学部
ギャリソン、ジェフリー・G.先生

ギャリソン先生は、1992年に本学短期大学英文科に就任されて以来、退職される本年3月まで22年にわたり、本学に奉職されました。2006年にGMS学部が設立されると同様に移籍され、同学部の英語教育のために尽力されました。日本語のお上手な方で、辞書の編集員や外国人向け日本語テキストの著者としても知られました。毎日のように自転車で通勤されていた姿がキャンパスから消えてしまったことが残念です。

(GMS学部教授 アシユェル、T.)



総合教育研究部
大浜 幾久子先生

大浜先生は東京大学大学院で学ばれ、1981年本学文学部教職課程講師に赴任されました。以来33年にわたり奉職され、その間、教職課程主任を務められる等、教員を志す本学の学生指導に貢献されました。ピアジェの理論と思想を丁寧に読み解き、異文化間教育の在り方も探究されたその成果は講義にも反映され、教育心理学により一層の関心をもつ学生もいました。先生のご活躍を祈念しています。

(総合教育研究部教授 萩原 建次郎)

開校130周年記念棟の建設に向けて

駒沢キャンパスで 新校舎の建設が始まります！

本学は平成24年に開校130周年を迎えました。駒澤大学の長年のひとつは、7学部すべてがワンキャンパスにあり、在学生すべてが4年間の学生生活を共にすることです。この「ひとつのキャンパス」というメリットを活かした環境で、皆さんがより意欲的に学べる環境を作っていくために、本学は駒沢キャンパスの再開発計画を進めています。

この再開発計画は、長期にわたって行われていくものとなりますが、まずは本学の開校130周年

を機に「開校130周年記念棟（以下、記念棟）」を建設することが決まりました。記念棟は、現在6号館（体育館）と9号館がある場所に建てられる大きな施設で、来年5月から6号館（体育館）の解体工事が始まります。工事期間は約5年です。工事期間中は、学生・教職員の皆さまの安全を重視するとともに、少しでも快適に学生生活を送っていただくための配慮を怠ることなく工事計画を策定しますので、ご理解ご協力をお願いいたします。

建設イメージ

記念棟は、高層棟と低層棟に分かれた造りとなる予定です。

高層棟は、延床面積24000㎡、9階建ての高層部（南側）と4階建ての低層部（北側）から成り、現在の6号館（体育館）の位置に7号館側へ少し広がる形で建設します（第1期工事）。また、高層棟の完成と同時に9号館を解体し、跡地に防災庫と課外活動に利用できる低層棟（平屋）を建設し、屋上を学生のための広場とします（第2期工事）。

高層棟内には学生食堂、売店、PC教場、情報自習室、40人～400人の教場、多目的ホール、総合情報センター等を配置する他、防災の拠点として防災センターを設置します。

現在、6号館（体育館）内の施設設備等の学



内移転計画を進めており、その第1弾として本年10月末に記念講堂改修工事が完了いたします。平成27年5月より6号館（体育館）の解体に着手し、第1期工事である高層棟の完成を平成29年末と予定しています。

130周年記念棟建設工程（予定）

6号館（体育館）内施設設備の移転	平成26年11月～平成27年4月
6号館（体育館）・パオ解体～新築工事（第1期工事）	平成27年5月～平成29年12月
平成30年4月より高層棟使用開始 9号館解体～新築工事（第2期工事）	平成30年4月～平成31年6月

大学への支援を
お考えの皆さまへ

皆さまには平素より駒澤大学の募金事業にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。駒澤大学開校130周年記念棟建設基金への募金は、同窓生をはじめ本学にご縁がある方、宗門関係者等々の皆さま、そして教職員の方々から広くご賛同を得て多くの寄付金が寄せられております。ご協力いただいた皆さまには深く感謝申し上げます。

今後も引き続き皆さま方のご支援を受け付けておりますので、よろしく申し上げます。ご不明な点、お問い合わせ等につきましては募金事務室までご連絡ください。

募金事務室：TEL **03-3418-9561**・FAX **03-3418-9037**
E-mail **bokin@komazawa-u.ac.jp**

駒大生のソウルフード 喫茶パオ

来年2月で44年の歴史に幕



開校130周年記念棟の建設が始まるに伴い、1971(昭和46)年から営業されてきた喫茶パオが閉店することになりました。来年の2月、定期試験が終了するのを見届けたのちに、44年の歴史に幕を下ろします。パオのスパゲッティやサンドイッチは、長い間駒大生の胃袋を満たしてきた、いわばソウルフードです。今号では、パオの歴史を写真でご紹介します。



1975(昭和50)年頃はカウンターに座って食べる形式を取っていた

『学園通信』が創刊されて3年後の1971(昭和46)年に営業を開始。遊牧民の移動式住居ゲルを模した八角形のユニークな建物。店名パオは「ゲル=包」の中国読みが由来。写真右奥に見えるのは4号館



はい、いらっしゃい!

3代目の天森さん
スパゲッティを箸で食べる独特のスタイルは、2代目の店長から始まった。元々はシルバー皿とフォークで提供していた。今の店長は3代目。



昼に賑わうテラス席

パオ



卒業生に根強い人気を誇るミート(280円)
スパゲッティソースは全て手作りで味が守られてきた

5年ほど前に登場した明太スバ(320円)
今では注文の6割を占めるヒットメニュー



季節限定メニューや学部とのコラボレーションメニューが提供されることもある
グローバル・メディア・スタディーズ学部とともに開発された和風スバ(350円)



色とりどりの食券

パオ

サンドイッチやサイドメニューも豊富



トマトミックス(250円)

鶏肉の唐揚げ(100円)



パオ



8と0の付く日に割引を行う「パオデイ」は、10年ほど前から始まった意外にも新しいサービス

喫茶パオ 営業時間

平日 8:30~19:00 / 土曜日 8:30~17:00

※大学の行事や休業日により変更となることがあります。

「世界難民の日」を伝える映画上映会開催

法学部三竹ゼミ

6月20日は国連で定められた世界難民の日です。世界難民の日は、難民の保護と援助に対する世界的な関心を高めること、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）やNGO（非政府組織）の活動の理解と支援を深めることを制定の目的としており、この日に合わせて様々な催しが世界各地で行われています。そこで、昨年UNHCR主催の難民映画祭で上映された『シリア、踏みにじられた人々と希望』という作品を6月16日～19日に全国の各大学で同時に上映する企画を実施しました。駒澤大学では6月18日に開催し、約30人の学生が参加しました。

私が難民問題を初めて知ったのは大学2年のときでした。迫害を受け、国を追われ、苦しんでいる人々が世界に何



千万人もいることに衝撃を受け、何よりその事実を知らずに20年間生きていたことに不快感を覚えました。まずは、難民

がどれだけいて、何に苦しんでいるかを知ることが重要だと考え、学生団体に入り若者への啓発活動を行ってきました。



本企画は日本における認知度が特に低いシリア難民の現状を大学生に知ってもらい、行動するきっかけを作ることが目的でした。また、昨年日本で難民認定申請をした3,260人の外国人のうち、認定されたのはわずか6人であり、日本の低い認定率は国際的な批判を浴びていることも知ってもらいたいと考えました。

本企画に参加した学生がこれを機に、難民問題に対して何か行動を起こしてくれることを願っています。世界難民の日は一年に一回ですが、若者が難民について考える日をより増やせるように今後も活動していきたいと思っています。

(法学部政治学科 4年 笠原 輝太)

本と人をつなぐビブリオバトル



今話題の書評ゲーム“ビブリオバトル”が、平成26年7月1日（火）16時30分から図書館4階グループ読書室2にて開催されました。

法学部岡田研究室・富樫研究室の協力もあり、第1ゲーム3人、第2ゲーム4人、合計7人の発表者と、観戦参加者40人で熱いバトルが展開されました。

発表者によるそれぞれ5分間のプレゼンテーションの後、2分間のディスカッション。

一番読みたくなった本を基準として会場にいるみんなで投票した結果、第

1ゲームは文学部4年堀岡萌さんの「りんごかもしれない」（作：ヨシタケシンスケ）、第2ゲームは法学部4年須江翼さんの「海の底」（著者：有川 浩）が見事チャンプ本（1位）に選ばれました。

本と人をつなぐビブリオバトル。ビブリオバトルは単なる本のプレゼンテーションではありません。本の魅力を紹介するだけでなく、本を通じてコミュニケーションの場になるのです。本がつなぐ、人とのつながりが、このイベントの魅力だと思います。

全国的な広がりを見せるビブリオバトルを駒澤大学でもさらに盛り上げようと、図書館では第2回ビブリオバトル開催が決定しました。奮ってご参加ください。なお、ビブリオバトルに関するお問い合わせは、図書館2階レファレンスカウンターまでお願いいたします。

(図書館)



第2回ビブリオバトル開催決定

日時：10月28日（火） 16:30～17:50頃
場所：図書館4階グループ読書室2
※詳細は大学ホームページをご覧ください。

知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト
<http://www.bibliobattle.jp/>

昨2013年度にネパールのLumbini International Research Instituteと中国の清華大学においてそれぞれほぼ半年間の在外研究、また2014年の8月と9月に米国での補足的調査をする機会を得た。「経済社会学の基礎理論」に関する研究と、「日本・米国・中国における市民社会と中間層に関する比較研究」という2つの課題を統一的に進展させることが、この研究期間における主要な課題であった。

20世紀半ばから21世紀半ばにかけてのミレニアム転換期、とくに前世紀の第4四半期から今世紀の第1四半期にかけてのコア転換期には、20世紀の先進諸国における新中間層の形成と解体、20世紀の新中間層の変貌と21世紀のさらに変容した新中間層の形成と解体とが絡み合う、市民社会と中間層をめぐる複合的な問題が世界史的な重要性をもつようになった。このコア転換期に疎外と苦が世界的規模で再拡大しており、ミレニアム転換期の基底には資本の過剰蓄積の問題が伏在している。その過程を深く理解し、対応するためには、ブッダとマルクスをめぐる謎を体系的に究明

しておかなければならない。

この間の在外研究時に、これらの領域の基礎研究を大いに進展させることができた。日本や米国、またネパールやインドなどとの比較をふまえて、中国の市民社会と中間層の動向をめぐる具体的な認識を深めることもできた。マルクスの隠された方法となっていた疎外論の研究を深め、ブッダの謎を解く重要な鍵となるティラウラコット遺跡の発掘現場の視察なども含めて、カピラヴァストゥとウッタラパーサに関する研究を深化させることもできた。

まことにより経験と研究の機会を得た。謝意を込めて成果を公表してゆきたい。



ティラウラコット（ネパール）の発掘現場にて

■ 研究こぼれ話

風穴 -世界遺産にもなった天然冷蔵庫-

文学部講師 鈴木 秀則



2014年6月、群馬県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録されたことは記憶に新しいことと思われます。その構成資産の一つに、下仁田町の「荒船風穴」があります。風穴とは、隙間の多い地下空間が年間を通して低温に保たれるため、外気との温度差が大きい夏場を中心に、洞窟の入口や岩の隙間から冷気が吹き出す場所のことです。荒船風穴には、明治末期から昭和初期まで、天然の冷気を利用した蚕の卵（蚕種）の冷蔵貯蔵施設がありました。蚕種を冷気の中で保管し、必要なときに取り出して孵化させることで、それまで年1回しかできなかった蚕の飼育を複数回行えるようになり、生糸の生産量が飛躍的に増加しました。このような施設は全国各地にありましたが、荒船風穴の貯蔵量は日本一を誇り「風穴界の霸王」と称されていたほどです。

この夏、荒船風穴から程近い北八ヶ岳と浅間山にある風穴の調査に出かけました。都内では30℃を越える猛暑の中、岩の隙間から2～3℃の冷気が吹き出す風穴は、まさに天然のクーラーそのものであり、涼しい別世界を体験してきました。風穴は電気冷蔵庫の普及によりその役目を終えましたが、近年地域活性化などで見直され、味噌や酒類などの熟成保存などに再利用している例もみられます。

再生可能エネルギーの導入が声高に叫ばれる中、風穴を利用した冷蔵貯蔵施設の整備はその一翼を担うことにもなります。今後各地で再利用が進められるとともに、それを地域振興に活かすことで、地域の財産として風穴が保存されていくことを期待しています。

ゲーム理論と日常生活

経済学部准教授 鈴木 伸枝

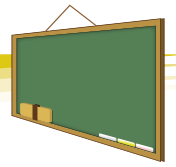


人が「どんな行動をとるか」を決めることを意思決定といいます。その意思決定について考えるのが、ゲーム理論です。「ゲーム」という言葉から、競争での勝ち負けの話だと思われかもしれませんが、あるいは経済学の一分野ということで、お金のやりとりの話だと思われかもしれません。実際にはゲーム理論の守備範囲は、それぞれ「人間の行動に関することなら何でも」といっていいほど広く、駅で早く切符を買うにはどの券売機に並んだらいいかという日常なことから、国際紛争でどんな手を打つべきかという重々しいことまでカバーしています。単に広く扱うだけでなく、駅でのバトルと国際紛争に共通するエッセンスを見つけ、一つひとつの問題の解決策にたどりつくのにかかる時間を短縮するのをもまた、ゲーム理論の役割です。

一つひとつの事柄ではなく共通のエッセンスを扱うためには、自分の目を見たものをいくつかまとめて抽象化して考えなければいけません。忙しい日常では、見慣れた実際の人間や社会からの刺激は薄いので、論文や本が見せてくれる既に抽象化されたものばかり追って、自分の目で見なくなってしまうのが困った点です。

そこで、最近日本を離れた時に、興味をもって人や町を眺め、素直に喜び、怒り、感心し、呆れるように心がけています。今年度は台北（台湾）、バンコク（タイ）、ルガーノ（スイス）で学会報告をしました。慣れ親しんだ台北の急速な都市開発、初めて訪れたバンコクの人の優しさやルガーノの治安の良さと同時に感じたのは「日本にも共通する人間の日常」のようなものでした。

毎日学べる英会話 実施中!



駒澤大学は今年度、在学生向け課外講座として『毎日学べる英会話』を開設しました。これはネイティブスピーカーの講師のもと、大学の授業期間中に、40分の英会話レッスンを年100回受講できるプログラムで、現在116人が登録しています。教室に講師が10時から18時まで待機しているため、各自のスケジュールに合った時間に受講できるのが特徴です。さらに、レッスンとは別に講師とフリートークができる「English Challenge」という時間があり、レッスンの復習や、海外の文化や趣味について自由に会話を楽しむこともできます。

毎日顔を合わせているためか和気あいあいとした雰囲気でき、受講生からは「英語を話すことにすぐに抵抗がなくなり、今と

ても楽しい」との感想が聞かれます。

このプログラムは、大学の授業とはまた別の「学びの場」になっています。



学内説明会の様子

問い合わせ先 株式会社KUサポート 03-3418-9525

KOMAZAWA NEWS

記念講堂の改修工事实施中

駒沢キャンパス記念講堂の改修工事を、6月16日(月)～10月30日(木)の期間で実施しています。

学生の皆さんにはご不便をおかけしていますが、完了までご協力をお願いいたします。



ブルーペガサスがドラマの応援演技に協力

応援指導部ブルーペガサスのリーダー一部が、7月より放送されたフジテレビドラマ『あすなる三三七拍子』(毎週火曜日夜9時放送)の応援演技を監修しました。このことから、同ドラマの制作発表も深沢キャンパスで行われました。



仏教学部山口弘江講師が日本印度学仏教学会賞を受賞

仏教学部仏教学科の山口弘江講師が、第56回日本印度学仏教学会賞を受賞しました。本賞は、仏教学会としては日本最大級である日本印度学仏教学会より若手研究者を対象として贈られるものです。



国文学科近衛典子教授が日本学術振興会から表彰

文学部国文学科の近衛典子教授が、独立行政法人日本学術振興会より、特別研究員事業等の審査員を務めたことによる「有意義な審査意見を付していただいた専門委員等」として表彰されました。



自衛消防活動技術大会で職員チームが優勝

玉川消防署が主催した平成26年度自衛消防活動技術大会で、職員で組織した男子隊と女子隊がそれぞれ準優勝と優勝という好成績を収めました。本学は毎年この大会に参加し、学内の消防・防災活動に努めています。



100円朝食を12月まで延長決定

在学生に100円の朝定食を提供する取り組み(協力:教育後援会)を、12月まで継続します。アンケートで好評だったことによるもので、この他にも洋食メニューを導入するなど、教育環境のさらなる充実を図っています。



仏教行事について

太祖降誕会

仏教学部教授 岩永 正晴

11月21日は太祖降誕会、曹洞宗の太祖瑩山紹瑾禪師（1268-1325、一説に1264-1325）御誕生の日です。この日、本学では大本山總持寺より御導師様をお招きし報恩の法要を営んで、その御誕生をことほぎ、感謝の信を捧げます。

瑩山禪師の著作には『伝光録』があり、道元禪師の『正法眼蔵』と並んで宗典と位置づけられています。また『瑩山清規』と呼ばれる著作があって、曹洞宗にとっては『伝光録』に勝るとも劣らない重要な役割を果たしてきたと考えます。

釈尊は仏子のために教法と戒律をお遺しになりました。いわゆる禅宗は戒律の精神を踏まえ、時代と地域の特性に合わせた清規と呼ばれる修行生活の規則を作り、教団として独立しました。戒律と清規は歴代仏祖の尊ぶところとなって、その実践によって釈尊の教法が仏子の生活・修行の上に具体化されてきました。瑩山禪師は、中国の天童如浄禪師や道元禪師の口伝をも受け、永平門下のための清規を成文化されました、それが『瑩山清規』です。釈尊から道元禪師にまで受け継がれた正伝の仏法が今に伝わるのは、『瑩山清規』の実践があつたことだと信じます。



成道会

仏教学部准教授 池上 光洋

中国宋代頃からの禅家の伝承によれば、お釈迦さまは12月8日の未明、さとりを開かれブツダになった。その日を祝して行われる法要が、成道会である。

また釈尊は、開悟にさきだつこと1週間、6年の苦行を捨てて身心を調べてから、決死の覚悟で瞑想を行ったという。禅の修行道場ではこの故事にもとづき、12月1日から8日未明まで、臘八撰心という集中的な坐禅修行が行われ、その終わりに成道会法要が営まれる。

大学1年生が年度末試験を通過して名実ともに「大学生」となるように、新参の修行者もこの臘八撰心を終えると一皮むけた存在となる。釈尊の修行に比べれば大したことはなかろうが、1週間の撰心を終えての成道会は、修行僧にとって忘れがたい思い出の1つとなる。

ただし、感慨にひたっている時間は長くはなく、中国禅宗二祖の慧可が初祖・達磨に参じたさいの伝説を記念する断臂撰心が引き続き行われるため、「よりによってなんでこの日に……」と、暗澹たる気持ちになったのは、私だけではない。



なお、本学をはじめ修行道場ではない多くの寺院では、成道会だけが単独で行われることが多い。

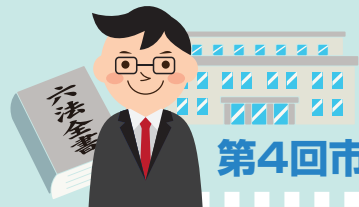
なお、本学をはじめ修行道場ではない多くの寺院では、成道会だけが単独で行われることが多い。

司法試験合格者発表

難関の司法試験2人合格

9月9日（火）、2014年司法試験の合格発表があり、本法科大学院から未修者コース修了者2人が合格しました。合格された皆さまには、教職員一同、心よりお祝いを申し上げます。また、ご支援を賜っております、第一東京弁護士会、駒澤大学法科大学院法曹会ほか関係者の皆さまに、厚くお礼を申し上げます。本法科大学院は、さらなる自己改革に努め、全力で在学・修了生を支援します。

（法科大学院教授 青野 博之）



無料法律相談・第4回市民ロースクール開催

法科大学院

本法科大学院は、地域住民とのコミュニケーションを大事にしています。その一環として7月19日（土）、「本校出身者による地域貢献」を目指し、駒澤法律事務所所属弁護士と本法科大学院法曹会会員弁護士により無料法律相談を開催しました。

また7月26日（土）には、6階の模擬法廷教室で市民ロースクール「裁き・裁かれる一意外と身近な刑事訴訟法」（松本英俊教授）を開催しました。模擬法廷教室でイベントを開催するのは初の試みで、聴衆の方々には傍聴席に着席していただき、大変暑い中、すべての席が埋まるほど盛況でした。2009年

に始まった裁判員制度により、一般市民が犯罪を裁く立場に立つ可能性があります。また、裁かれる可能性も決してないとはいえません。今回は、この2つの視点から刑事手続を考えてもらうため具体的な事件などを例に挙げ解説し、最後には質疑も行われました。

（法科大学院教授 青野 博之）



平成26年度科学研究費助成事業(科研費)に50件採択されました。

科学研究費助成事業(科研費)は、人文・社会科学から自然科学までのすべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を対象とした「競争的研究資金」です。文部科学省または独立行政法人日本学術振興会が審査し、豊かな社会発展の基盤となる独創的・先駆的な研究に対し助成が行われています。

本学では新規・継続あわせて50件が採択されました。

平成26年度 科学研究費助成事業(科研費)採択者 ※GMS学部＝グローバル・メディア・スタディーズ学部

研究種目	継続/新規	所属	職名	氏名	研究課題名
基盤研究(B)	継続	仏教学部	教授	石井 公成	古代東アジア諸国の仏教系変格漢文に関する基礎的研究
	継続	文学部	教授	土谷 敏治	超高齢社会に向けた大都市圏縁辺地域のモビリティ満足度に関する地理学的研究
	継続	総合教育研究部	教授	伊藤 茂樹	少年院における更生的風土の形成と展開に関する教育学的研究
基盤研究(C)	継続	仏教学部	教授	金沢 篤	近代日本におけるインド学仏教学の成立と展開—その書誌学的・文献学的研究—
	継続	文学部	教授	有光 興記	コンパッション・セラピーによる認知行動変容の比較文化研究
	継続	文学部	教授	大城 道則	エジプト王バクエンレンエフのギリシア・ローマ世界への伝播過程に関する研究
	継続	文学部	教授	酒井 清治	東日本における初期仏教寺院導入期の考古学的研究
	継続	文学部	教授	櫻井 陽子	覚一本「平家物語」の選行と伝播・受容についての基礎的研究
	継続	文学部	教授	須山 聡	「まとまり」と「つながり」の観点からみた島嶼性に関する地理学的研究
	継続	文学部	教授	土井 光祐	データベース構築に基づく明恵関係書類の記述的研究
	継続	文学部	教授	李 妍焱	中国の市民社会に良い影響を与えるために：仕組み作りと意識変革のための実践的研究
	継続	文学部	准教授	深澤 弘樹	ローカルニュースの現状と役割に関する研究：内容分析と送り手調査から
	継続	経済学部	准教授	鈴木 伸枝	離脱可能な組織を通じた公共財供給
	継続	経済学部	准教授	矢野 浩一	ゼロ金利制約下の大規模ショックによる経済変動と政策対応の計量分析
	継続	法学部	教授	原田 啓一郎	地域における統合的ケア体制の構築に係る基礎研究—地域包括ケアを創る在宅医療の検討
	継続	法学部	教授	村井 良太	民主政治下での長期政権のメカニズムと政策形成—補田資料を用いた佐藤政権の歴史分析
	継続	法学部	准教授	山崎 望	ポスト代表制における民主主義の諸問題—代表制・熟議システム、直接民主主義—
	継続	経営学部	教授	小本 恵照	知識ベース理論と取引費用経済学を用いたフランチャイズの利用理由に関する研究
	継続	経営学部	准教授	菅野 佐織	ブランド・リレーションシップの国際比較に関する研究
	継続	総合教育研究部	教授	西村 祐子	移民流入と伝統的低位職の地位変更に関する考察：比較研究の視点から
	継続	総合教育研究部	准教授	上田 倫史	L2学習者の語彙理解の深度を測定する包括的な語彙テストと学習支援システムの構築
	継続	総合教育研究部	准教授	中村 哲子	19世紀アイルランド小説のアイリッシュネスの発展と拡散に関する研究
	新規	仏教学部	准教授	村松 哲文	中国における涅槃図像の変容に関する研究—敦煌・西安・四川の関連関係—
	新規	文学部	教授	山田 信行	グローバル化と反システム運動の動向—半周辺社会マレーシアを事例とする調査研究
	新規	経済学部	教授	長山 宗広	オープンイノベーションとメイカース革命時代における製造業の日本的創業モデル
	新規	医療健康科学部	教授	嶋田 守男	ハイブリッドMRI造影剤と動物実験による他の造影剤との性能の基礎的比較検討
	新規	GMS学部	准教授	芝崎 厚士	脱国民国家の思想からオルター・国民国家の思想へ—近現代日本のトランスナショナルイズム
	新規	GMS学部	准教授	服部 哲	生活に溶け込むタレント・メディアの構想：障害者・高齢者に学ぶコミュニケーション
	新規	GMS学部	准教授	吉田 尚史	センサデータベースを対象とした即時分析及びタグ自動抽出
	新規	総合教育研究部	教授	小沢 誠	多様体グラフの埋め込み
新規	総合教育研究部	講師	三木 望	日本人学習者のライティングのメタ談話標識のエラー分析	
若手研究(B)	継続	仏教学部	講師	藤井 淳	三教交渉文献のテキストデータ集成と訳注
	継続	文学部	教授	荒井 浩道	ピアサポート機能に注目した認知症家族会の運営マニュアルの開発と評価に関する研究
	継続	文学部	教授	田中 靖	航空機レーザ計測データを用いたプロセスベース型地形シミュレーションモデルの構築
	継続	経済学部	准教授	浅田 進史	19・20世紀華北におけるドイツ帝国主義と鉄道事業—グローバル化の視点から
	継続	経済学部	准教授	北口 りえ	未実現利益への課税がもたらす課税所得概念の変容
	継続	経済学部	准教授	松本 典典	日本における労働統合型社会的企業モデル構築のための国際比較研究
	継続	法学部	講師	大西 楠・テア	移民政策と家族生活の保護—グローバル化時代の日独移民法制—
	継続	経営学部	准教授	中野 香織	「符号化変動性仮説」に基づく複数メディアによる相乗効果の検討
	継続	医療健康科学部	講師	岡田 朋子	温度応答性を付与した癌細胞造影剤の新規構造モジュールの構築
	継続	総合教育研究部	准教授	勅使河原 三保子	自分の発音に自信と誇りを持って話せる日本人英語学習者の育成に向けて
	新規	法学部	准教授	奥村 公輔	執行府の憲法解釈権の構造の比較法的研究
	新規	GMS学部	助教	松前 恵環	SNSとプライバシーに関する比較法的・体系的考察—情報の自発的公開とプライバシー
挑戦的萌芽研究	継続	文学部	教授	片岡 えみ	信頼社会の形成に関する学際的研究
	継続	医療健康科学部	教授	森口 央基	「仮想データ」を用いたMRI撮像の高速化
	継続	GMS学部	准教授	高 媛	戦争・観光・デザイン—戦前期満洲における「観光デザイン」の歴史的展開
研究活動スタート支援	新規	文学部	講師	角道 亮介	中国初期王朝時代における関中平原と陝北地域の地域間交流とその変容
	新規	経済学部	講師	西村 健	産業規制の制度設計：独占企業による情報の私的保有について
研究成果公開促進費(学術図書)	新規			柳 幹康	永明延寿と『宗教録』の研究
特別研究員奨励費	新規			柳 幹康	『宗教録』の研究—唐から宋への仏教思想の展開—

科学研究費による研究 ～癌細胞造影剤の基礎研究～

医療健康科学部講師 岡田 朋子

私が科研費から助成を受けている研究のタイトルは、「温度応答性を付与した癌細胞造影剤の新規構造モジュールの構築」です。この研究の目的は、癌に対する有効な診断法と治療法のための、新しい薬剤をつくることです。近年では、癌に対する活発な研究開発によって新しい診断方法や治療方法が報告され、癌の治癒率は確実に上昇しています。しかし、これまでの癌治療では、多くの場合に副作用が伴います。この副作用を低減するための新しい方法の中には、「放射線」よりも正常細胞へのダメージが少ない「磁気」や「近赤外線」を使用した診断・治療方法があります。私の研究では、近赤外線に反応する分子と、温度によって構造を大きく変化させる生体高分子を組み合わせて、より副作用を低減する薬剤をつくることにしました。この薬剤を癌の造影剤として使え

ば、「近赤外光」を照射することで癌細胞を選択的に破壊できると期待しています。ところで、「つくる」とは言っても、接着剤やはさみを使った工作ではありません。原子と原子を結合させたり切断したりして、デザインしたとおりの分子を化学反応で「合成する」ことが、研究の最初のハードルです。複雑な生体分子を扱う場合は、酵素反応を使った生化学合成法も利用します。一つの分野に固執しない視点で、目的に応じて実験手法を選択しながら、研究を進めるようにしています。

研究室の学生たちが総合研究に取り組む中で、生じる疑問や小さな発見が、私の研究を支えてくれます。大学での研究だからこそ可能になる基礎的な研究に、これからも取り組んでいきたいと思っています。

第8回学長学業奨励賞受賞について

下記の通り、第8回学長学業奨励賞が222人に授与されました。
この賞は、前年度の各学科成績上位者若干名を学年ごとに表彰するものです。

〈仏教学部禅学科〉

- 【2年次生】中野智教・吉岡俊明
【3年次生】北村佳菜・石島一隆
【4年次生】米積雄大・吉田谷龍太郎

〈仏教学部仏教学科〉

- 【2年次生】森有希・河内和輝・河本圭音
【3年次生】片倉梨香・細矢尚寿・寺島正顕
【4年次生】松田瑞生・木村康信・石浦大宗

〈文学部国文学科〉

- 【2年次生】渡邊温子・澤口由紀那・森晴菜
【3年次生】山地未来・田中香・大和田泉
【4年次生】石野裕彦・高橋弘樹・大林加奈

〈文学部英米文学科〉

- 【2年次生】菅原ひろみ・村上菜摘・
鳥羽希美
【3年次生】関口龍人・西東公司・稲垣静夏
【4年次生】鈴木萌・大隅理紗・藤澤成美

〈文学部地理学科地域文化研究専攻〉

- 【2年次生】斉藤あいみ・徳嵩椋也
【3年次生】小林由真・八戸響子
【4年次生】吉田愛・松浦誠

〈文学部地理学科地域環境研究専攻〉

- 【2年次生】山口博之・石原功基
【3年次生】佐藤なるみ・松本正太
【4年次生】加藤浩・野澤綾子

〈文学部歴史学科日本史学専攻〉

- 【2年次生】池田翔太・西野真悠
【3年次生】青木美紗・高林拓也
【4年次生】大野真由・岡崎光司

〈文学部歴史学科外国史学専攻〉

- 【2年次生】畑野梨花・内田美香
【3年次生】増田舞・韓春峰
【4年次生】黒川恭平・森静香

〈文学部歴史学科考古学専攻〉

- 【2年次生】竹内駿
【3年次生】長澤文彩
【4年次生】生出美奈

〈文学部社会学科社会学専攻〉

- 【2年次生】上窪壘・野崎真由
【3年次生】谷口真彦・岡村吉崇
【4年次生】齋藤結美香・須田ひかり

〈文学部社会学科社会福祉学専攻〉

- 【2年次生】岩崎譲・福原佑実
【3年次生】北村京子・鈴木圭祐
【4年次生】陶嘉祐・榊理恵

〈文学部心理学科〉

- 【2年次生】大森結貴・若林加奈子
【3年次生】松崎優和・早瀬知里
【4年次生】浅井貴史・栗田愛子

〈経済学部経済学科〉

- 【2年次生】千羽敏史・和田惇・一倉理紗・
邵莉莉・津保久美奈・渡辺力哉・
熊谷真
【3年次生】内海凌士・黒宮夕貴・増田莉菜・
熊川彰仁・長谷川優太・
小澤直樹・関谷彩花

- 【4年次生】西村拓毅・加藤大翼・平野有希・
渡辺諒・高田晴行・岩片未央・
関口裕樹

- 【2年次生】谷口佑也・武井若菜・清水亮太・
磯部美紀・高木理保
【3年次生】小川史貴・宮崎景・富澤綺女・
肖涵霏・石原里奈
【4年次生】三浦遥香・竹田龍央・福村侑香・
吉本今日子・亘夏摘

〈経済学部商学科〉

- 【2年次生】谷口佑也・武井若菜・清水亮太・
磯部美紀・高木理保
【3年次生】小川史貴・宮崎景・富澤綺女・
肖涵霏・石原里奈
【4年次生】三浦遥香・竹田龍央・福村侑香・
吉本今日子・亘夏摘

- 【2年次生】大黒愛子・島田真琴・桐谷和
【3年次生】久保田広平・藤井貴大・山室光
【4年次生】安西奈々・露崎絢子・相田雄貴

〈経済学部現代応用経済学科〉

- 【2年次生】大黒愛子・島田真琴・桐谷和
【3年次生】久保田広平・藤井貴大・山室光
【4年次生】安西奈々・露崎絢子・相田雄貴

〈法学部法律学科フレックスA〉

- 【2年次生】関本俊・渡辺早苗・草野夏海・
小澤悠河・嶋祐紀恵・嘉村聡士
【3年次生】石神実保・綿貫貴太・吉田朱里・
鈴木邑太郎・蛭名将也・
琴寄信和
【4年次生】粕谷英孝・古谷康平・濱野里美・
内田愛実・佐久間幸恵・
小池泰然

- 【2年次生】関本俊・渡辺早苗・草野夏海・
小澤悠河・嶋祐紀恵・嘉村聡士
【3年次生】石神実保・綿貫貴太・吉田朱里・
鈴木邑太郎・蛭名将也・
琴寄信和
【4年次生】粕谷英孝・古谷康平・濱野里美・
内田愛実・佐久間幸恵・
小池泰然

- 【2年次生】関本俊・渡辺早苗・草野夏海・
小澤悠河・嶋祐紀恵・嘉村聡士
【3年次生】石神実保・綿貫貴太・吉田朱里・
鈴木邑太郎・蛭名将也・
琴寄信和
【4年次生】粕谷英孝・古谷康平・濱野里美・
内田愛実・佐久間幸恵・
小池泰然

- 【2年次生】関本俊・渡辺早苗・草野夏海・
小澤悠河・嶋祐紀恵・嘉村聡士
【3年次生】石神実保・綿貫貴太・吉田朱里・
鈴木邑太郎・蛭名将也・
琴寄信和
【4年次生】粕谷英孝・古谷康平・濱野里美・
内田愛実・佐久間幸恵・
小池泰然

- 【2年次生】関本俊・渡辺早苗・草野夏海・
小澤悠河・嶋祐紀恵・嘉村聡士
【3年次生】石神実保・綿貫貴太・吉田朱里・
鈴木邑太郎・蛭名将也・
琴寄信和
【4年次生】粕谷英孝・古谷康平・濱野里美・
内田愛実・佐久間幸恵・
小池泰然

- 【2年次生】関本俊・渡辺早苗・草野夏海・
小澤悠河・嶋祐紀恵・嘉村聡士
【3年次生】石神実保・綿貫貴太・吉田朱里・
鈴木邑太郎・蛭名将也・
琴寄信和
【4年次生】粕谷英孝・古谷康平・濱野里美・
内田愛実・佐久間幸恵・
小池泰然

- 【2年次生】関本俊・渡辺早苗・草野夏海・
小澤悠河・嶋祐紀恵・嘉村聡士
【3年次生】石神実保・綿貫貴太・吉田朱里・
鈴木邑太郎・蛭名将也・
琴寄信和
【4年次生】粕谷英孝・古谷康平・濱野里美・
内田愛実・佐久間幸恵・
小池泰然

〈法学部政治学科〉

- 【2年次生】真野斗志樹・浅野耕・高尾葉菜・
小野寺悠祐
【3年次生】佐藤梓・関根菜摘・藏盛有紀・
熊田ゆり子
【4年次生】齋木光司・海老名美香・
吉田英莉・川瀬延奈

〈経営学部経営学科〉

- 【2年次生】李美鳳・吉田美里・斉藤健太・
高橋沙奈美・増田隆明・
山口友香・岩村結衣
【3年次生】原田大樹・渡部一雄・成川祐太・
渡辺涼太・加藤崇史・松田里奈・
鈴木詩央里
【4年次生】山本恵美・佐藤瑞姫・黒田沙織・
鈴木栄人・戸塚亮汰・杉本咲・
吉田峰咲

- 【2年次生】李美鳳・吉田美里・斉藤健太・
高橋沙奈美・増田隆明・
山口友香・岩村結衣
【3年次生】原田大樹・渡部一雄・成川祐太・
渡辺涼太・加藤崇史・松田里奈・
鈴木詩央里
【4年次生】山本恵美・佐藤瑞姫・黒田沙織・
鈴木栄人・戸塚亮汰・杉本咲・
吉田峰咲

- 【2年次生】李美鳳・吉田美里・斉藤健太・
高橋沙奈美・増田隆明・
山口友香・岩村結衣
【3年次生】原田大樹・渡部一雄・成川祐太・
渡辺涼太・加藤崇史・松田里奈・
鈴木詩央里
【4年次生】山本恵美・佐藤瑞姫・黒田沙織・
鈴木栄人・戸塚亮汰・杉本咲・
吉田峰咲

- 【2年次生】李美鳳・吉田美里・斉藤健太・
高橋沙奈美・増田隆明・
山口友香・岩村結衣
【3年次生】原田大樹・渡部一雄・成川祐太・
渡辺涼太・加藤崇史・松田里奈・
鈴木詩央里
【4年次生】山本恵美・佐藤瑞姫・黒田沙織・
鈴木栄人・戸塚亮汰・杉本咲・
吉田峰咲

〈経営学部市場戦略学科〉

- 【2年次生】只野綺花・藤下瞬・佐藤美玖・
増尾健太
【3年次生】熊谷美沙・孫瑩・横山佳純・
古川絢子
【4年次生】周辰・大久保拓哉・小林恵美・
川上江里子

- 【2年次生】只野綺花・藤下瞬・佐藤美玖・
増尾健太
【3年次生】熊谷美沙・孫瑩・横山佳純・
古川絢子
【4年次生】周辰・大久保拓哉・小林恵美・
川上江里子

〈医療健康科学部診療放射線技術科学科〉

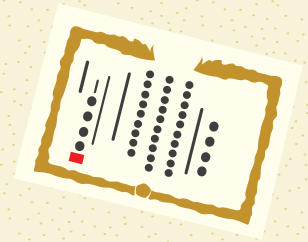
- 【2年次生】能重達匠・石橋貴徳
【3年次生】大鷹豊・及川朋子
【4年次生】岩田薫子・佐々木克樹

〈グローバル・メディア・スタディーズ学部
グローバル・メディア学科〉

- 【2年次生】織田華菜子・山岡優美・
土田穂里・長谷川愛・山本祐輔・
小内悠加
【3年次生】柴田守・阿部聡美・佐山昂生・
榊原みさを・新谷萌子・
木村文哉
【4年次生】岩田陽也・伊藤史哉・小杉茉以・
原歌織・高橋美邑菜・廣瀬亜美

- 【2年次生】織田華菜子・山岡優美・
土田穂里・長谷川愛・山本祐輔・
小内悠加
【3年次生】柴田守・阿部聡美・佐山昂生・
榊原みさを・新谷萌子・
木村文哉
【4年次生】岩田陽也・伊藤史哉・小杉茉以・
原歌織・高橋美邑菜・廣瀬亜美

- 【2年次生】織田華菜子・山岡優美・
土田穂里・長谷川愛・山本祐輔・
小内悠加
【3年次生】柴田守・阿部聡美・佐山昂生・
榊原みさを・新谷萌子・
木村文哉
【4年次生】岩田陽也・伊藤史哉・小杉茉以・
原歌織・高橋美邑菜・廣瀬亜美



ボウリング部

普段は親しみやすいスポーツとして、幅広い年代が楽しく行っているボウリング。今回のサークル訪問は、1球1球に熱い思いをかけるボウリング部を紹介します。

1967年に創立され、約50年もの長い歴史を持つボウリング部。部員は男女合わせて20人おり、現在所属している部員全員が、大学から始めた初心者です。毎週金曜日に世田谷オークラボウルで練習を行っています。週1回と決して多くはない活動日数でも、関東大学の1部リーグに在籍しているのは、それぞれが個人練習で努力を重ねた結果といえます。

プレーする環境をととのえるのに苦労しますが、それでも続けたいと思える魅力があるスポーツです。パーフェクトゲームを達成しても、そこがゴールではありません。「例えスコアで300を



とったとしても、本当に自分が納得のいくプレーをしないと満足しない。だからボウリングは面白い」と、主将の狩野さん。

また、個人戦だけでなくチーム戦でも盛り上がります。チームの要となるのは、試合経験を最も積んでいる4年生。ゲームメイクだけでなく、チームの柱として精神的にも周りをサポートします。ハイレベルな1部リーグで、優勝という目標を掲げる部の心強い存在です。

1年を通して数多くの大会があり、多忙なスケジュールの中で、学業やアルバイトと両立させるのはとても大変です。だからこそ、互いに支えあうチームメイトとは深い絆が生まれます。たった4年間しかない大学生活。勝利をひたむきに追いかける部員たちと一緒に、あなたも青春への1歩を踏み出してみませんか？

(駒大スポーツ所属 法学部政治学科2年 田代 愛)



MySeminar 私のゼミ vol.134

経営学部市場戦略学科2年
李 慧敏

経済学部 日野ゼミ

日野ゼミは経営組織論を研究するゼミで、現在22人の学生が所属しています。このゼミでは、経営組織における様々な問題を取り上げ、解決案を考え、新鮮な考え方を身につけることを目指しています。私が思う日野ゼミの特徴は、司会から発表、コメントまですべての授業を学生が進めていくことです。3～4人で組まれた班ごとに役割があり、班ごとにレジュメを作って発表したり、コメントしたり、話し合います。コメントも質問も答えが決まっているわけではないので、自由に自分の考えを話すことができ、発言することに自信を持つことができるのもまた、このゼミの特徴だと思います。

また、話し合うときに難しいテーマになると、先生が発言できるように「こういうふう考えてみたらどうかな?」と導いてくださるので、深く考えることができます。前期の授業では、テキストから世界の様々な経営について学び、「日本ならどうか」というテーマで議論することが多かったため、先の日本についても考えるようになりました。またレジュメを作るとき参考資料として使うためにいろんな世界の出来事について調べるので、他国について興味を持

つようになりましたし、更に知識を深めることができました。さらに、私は韓国出身ですが、中国国籍の学生もいて、東北アジアについての議論を深めることで、考え方の幅が広がりました。日野ゼミは勉強をするよりは「話し合う」、教わるというよりは「知っていく」という雰囲気のゼミです。



オータムフェスティバル&ホームカミングデー開催!

今年も、11月1日(土)・2日(日)に、駒沢キャンパスで大学祭「オータムフェスティバル」を開催します。ゼミやサークル、学生有志による様々な企画が行われます。また1日(土)は、卒業生を大学に迎える「ホームカミングデー」も同時開催します!

オータムフェスティバル公式サイト

ホームカミングデー公式サイト

Facebook

<https://www.facebook.com/autumnstaff>

http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/hcd_11th/

Twitter

https://twitter.com/koma_autumnfes





わくわく列車!



〇わくわく列車!とは...

社会教育主事講座を受講する有志の学生が、総合教育研究部・萩原建次郎先生のご指導のもと活動している団体です。

誕生から今年で4年目になり、学年を超えた交流も増えています。



▲今年度実行委員と萩原先生

< 1年間の主な活動内容 >

- 1月 実行委員会立ち上げ
- 2月 イベント企画立案
- 3月 合宿
- 4月 イベント準備
- 5月 イベント当日(2日間)
- 6月 お疲れさま会(報告会)
- 7月 記録誌作成
- 8月
- 引き継ぎ資料作成
- 12月



〇活動内容

地域(小中学校、駒大を含む)のさまざまな人との交流の場をつくることを目的に、毎年横浜市の小学校を会場としてお借りして「地域交流イベント」を開催しています。

私たちは実行委員として、イベントの企画・運営を地域の方々と一緒に行っています。

〇今年のイベント

「ずっと宝モノ!」をテーマに、5月10日と11日に開催され、来場者数は2日間で計910人とイベント始まって以来の大盛況となりました。

性別や年齢を問わずさまざまな世代の地域の方にご参加いただき、また、多くの駒大生にもボランティアとしてお手伝いいただきました。

本当にありがとうございました。



▲企画「長〜いのり巻きづくり」では約8mののり巻きをみんなで作りました!

たくさんの方々との交流は、普段の学校生活にはない貴重な経験です。こうした経験から多くを学び、人間として大きく成長できる、それが「わくわく列車!」という場所です。わくわく列車!は先輩から後輩へと受け継がれ、着実に地域にも根付きはじめています。これからも、このレールを絶やすことなく、わくわく列車!は走り続けます!!

「学生企画」とは誌面1ページを自由に使い、学生主体で記事を作成する連載企画です。

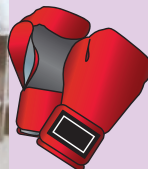
第17回アジア競技大会ボクシングフライ級 林田翔太選手が銅メダル獲得



本学ボクシング部の林田翔太選手(商学科4年)が、9月19日(金)～10月4日(土)に韓国・仁川で開催された「第17回アジア競技大会」のボクシングフライ級(-52Kg)に、日本代表選手として出場し、銅メダルを獲得しました。



林田選手は、2回戦を3-0、準々決勝を2-0の判定で勝ち進み、3位以上が確定。準決勝は惜しくも判定で破れ、銅メダルが決定しました。4年に1度行われ、「アジアのオリンピック」と呼ばれる本大会においてのメダル獲得は快挙であり、今後の林田選手のさらなる活躍が期待されます。



サークル活動報告

陸上競技部

世界大会の日本代表選手に選出

中谷圭佑さん(経済学科2年)が、7月22日(火)～27日(日)にアメリカのユージンで開催された「第15回世界ジュニア陸上競技選手権大会」の男子10000mに日本代表選手として出場しました。

自転車部

世界大会の日本代表選手に選出

榎木祥子さん(歴史学科3年)が、7月9日(水)～13日(日)にポーランドで開催された「2014世界大学選手権自転車競技大会」の女子ロードレースに日本代表選手として出場しました。

オーストラリアンフットボール部 "マダパイダ"

6人が世界大会の日本代表選手に選出

8月9日(土)～23日(土)にオーストラリアのメルボルンで開催された「AFL International Cup 2014」に、所属する6人が日本代表選手として出場しました。

空手道部

全国大会で優勝

6月28日(土)・29日(日)に開催された第57回全国空手道選手権大会で、男女団体形・組手が優勝(男子団体形5連覇)を収めました。個人戦では、女子個人組手で廣瀬まりさん(仏教学科4年)が優勝しました。

体操競技部

全国大会で準優勝

8月20日(水)～22日(金)に開催された第68回全日本学生体操競技選手権大会で、女子2部団体総合選手権の部の準優勝を収めました。

射撃部

リーグ2部昇格

9月12日(金)～15日(月)に開催された関東学生ライフル射撃選手権秋季大会の女子団体戦で、3部優勝し2部昇格が決まりました。

サークルの活動予定

声援歓迎

体育会

- 居合道部
 - 第19回関東甲信越居合道大会 / 11月22日(土) / 東京武道館
- 空手道部
 - 第58回全日本空手道大会 / 11月16日(日) / 日本武道館
 - 第42回JFK全日本空手道大会 / 12月6日(土)・7日(日) / 東京武道館
- 剣道部
 - 第60回関東学生剣道新人大会 / 11月23日(日) / 東京武道館
- 自転車部
 - 全日本学生RCS第12戦 行田クリテリウム / 12月14日(日) / 埼玉県行田市
- 射撃部
 - 平成26年度関東学生ライフル射撃新人大会 /

頑張れ 駒澤大学!! 詳細は各大会のホームページでご確認ください

- 11月6日(木)～11月9日(日) / 朝霧射撃場
- 柔道部
 - 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 / 11月8日(土)・9日(日) / 千葉ポートアリーナ
- 相撲部
 - 全国学生相撲選手権大会 / 11月8日(土)・9日(日) / 両国国技館
- 卓球部
 - 第81回全日本大学総合卓球選手権(個人の部) / 10月23日(木)～10月26日(日) / 愛知県体育館
 - 第11回全日本学生選抜卓球選手権 / 11月29日(土)・30日(日) / なみはやドーム・サブアリーナ
- 陸上競技部
 - 第46回全日本大学駅伝対校選手権大会 / 11月2日(日) / 愛知・熱田神宮～三重・伊勢神宮
 - 第91回東京箱根間往復大学駅伝競走 / 2015年1月2日(金)・3日(土) / 大手町～箱根町～大

- 手町
- チアリーディング部 BLUE JAYS
 - 第26回全日本学生選手権 / 12月13日(土)・14日(日) / 代々木第一体育館
- 文化部
- 合唱団
 - 第52回定期演奏会 / 12月20日(土) / 川口総合文化センターリリア
- 吹奏楽部
 - 第50回定期演奏会 / 12月20日(土) / 昭和女子大学人見記念講堂

駒澤大学ホームページ

パソコン・スマートフォン版
<http://www.komazawa-u.ac.jp/>
 フィーチャーフォン版
<http://m-serv.jp/komazawa/>

『サッカーを通じて、長崎を元気に、豊かにしたい。』



1968年長崎県生まれ。1991年文学部社会学科卒業。小3でサッカーを始め、強豪国見高校に進学。3年時にはユース日本代表に選ばれる。大学卒業後は長崎銀行に入行し地元チームでプレイを続ける。新生有明SCのコーチとして九州リーグ昇格に貢献。V・ファーレン長崎に名称変更の際に監督に就任。現在Jリーグ昇格を果たした同チームの代表取締役専務。

選手から監督、そしてクラブ経営陣に。様々な立場でのご経験を通じて、岩本さんが大切にしてきたこと、在学生へ伝えたい思いを熱く語っていただきました。

* * * * *

---大学時代に学んだことや印象的な思い出を聞かせてください。

国見高校時代、小嶺忠敏監督のもとでインターハイ優勝、全国高校選手権準優勝の成績を取めたのですが、私のプレイを見て駒大サッカー部の秋田浩一コーチ（当時、現監督・総合教育研究部教授）が誘ってくださったのが進学きっかけです。大学ではもちろんサッカー漬けの日々。勉強をおろそかにしない約束でしたが、試合が重なると授業に出席できず、ゼミの仲間はずいぶん助けら



現在、チームには駒大の卒業生が3人所属している。左から岩本さん、深井選手、金久保選手、碓井選手。

れました。リーグ1部昇格をかけた、大学最後の入れ替え戦に勝利した試合には、指導教授だった安藤先生（※1）と仲間が全員応援に来てくれて、皆で抱き合い、泣きましたね。

勝つことは喜びですが、それ以上に仲間や恩師、家族の支えの大切さを学びました。ともに汗を流し、闘ってきた仲間は一生の友であり、人生の宝です。技術や力の差じゃない、最後は気持ちと結束の強いチームが勝つ。自分自身と仲間を最後まで信じることが、成功への道なのです。厳しい練習の中で養った強い精神力と絆、駒大イズムが自分の原点です。今でも初心に立ち返りたいときは、大学へ足を運びます。この4年間があったおかげで、今日の自分があると思っています。

---選手から指導者に転身した経緯とは？

卒業後も強豪チームで選手を続けたという希望はありました。でも身体の限界や恩師の助言もあり、色々考えた末、帰郷することにしました。地元の長崎銀行で働き、社会人チームでプレイを続けました。就職後ほどなくしてJリーグ開幕。かつての仲間たちの活躍がメディアで注目されるのを横目に、もやもやする時期もありました。

さらに10年ほど経ち、当時は有明SCというチームで選手兼コーチをしていた頃に、長崎で初めてJリーグを目指すという目標ができました。まずは県リーグ突破。2005年九州リーグ昇格を決めた年、名称を改めV・ファーレン長崎となったチームの初代監督に。もう迷いはあ

りませんでした。選手として果たせなかった夢を、指導者として目指すことができる。そんな喜びと決意を新たにした瞬間です。今は、サッカーで長崎を元気に、豊かにし、私を育ててくれた故郷に恩返しすることが使命だと思っています。

---監督時代のモットーは。

恩師の影響が大きいです。駒大の秋田先生は常に練習場に一番乗りでグラウンドをならしていました。それを見る部員たちも競うように早く集合し、進んで整備をするようになったんです。「口で命令するのは簡単だが、人を動かすには自分が率先して行動せよ」、そう身をもって示したのですね。

私が監督に就任して、秋田先生から「多方面から見て選手のストロングポイントを伸ばす」ことを教わりました。それから選手の長所をどんどん生かす指導に変えると、チームの雰囲気が変わった。「勝敗より、岩本さんのために頑張ろう」と結束が強まり、結果、優勝を手にすることができました。もう涙が止まりませんでしたね。

---学生にメッセージをお願いします。

「不可能に挑戦する勇氣を持って」。高校でも大学でもそう言われ続けてきました。限界は、自分が決めてしまうこと。チャレンジしていくプロセスの中で、人間としてのたくましさが増し、人への気遣いができるようになるものです。

学生の皆さんには、自らの人間性と明確な目標を言えるようになってほしいですね。目標に向かい、どう進んでいくのか、失敗や挫折もあるけど、大事なのは自分なりの道を決めて挑戦し続けること。これはサッカーチームも学校も会社も同じです。チームの目標を監督が掲げ、それを選手が各自の目標に落としこんでいく。そこをしっかりと持っている人が、メンバーに残るんです。

* * * * *

V・ファーレン長崎

公式HP：
<http://www.v-varen.com/>

Facebook：
<https://www.facebook.com/VvarenNagasaki>

Twitter：
https://twitter.com/v_varenstaff

※1 平成14年3月に退職された安藤喜久雄先生。本学名誉教授。